

# くぬぎ山地区の自然再生活動に ご参加・ご協力ください！

くぬぎ山の自然再生は、地域の将来に責任を持つ人たちが、みんなで楽しく進めるものです。ご参加やご協力の内容には、以下のものがあります。

## ●「くぬぎ山地区自然再生協議会」主催の保全管理イベントにご参加ください！

くぬぎ山では、市民団体や学校等が中心となって自然再生に関する様々な活動が展開されていますが、平成22年から「くぬぎ山地区自然再生協議会」が主催となる保全管理イベントが開始されました。

このイベントは、一般県民や近隣住民、企業、学校、NPO、国・県・市町等の幅広い県民参加により、くぬぎ山の自然や歴史を学びながら武蔵野の平地林を蘇らせるために必要となる管理作業を楽しく進めるものです。どなたでも奮って、ご参加ください。

## ●保全管理イベント開催地での継続的な保全管理作業にご支援ください！

「くぬぎ山地区自然再生協議会」の保全管理イベントは年数回のみであるため、目標とする自然再生を達成するには継続的な保全管理作業が必要となります。当面の活動地である狭山市の公有地については、自然再生協議会で「日常的なボランティアのルール化」を定め、申し出のあったNPOにお願いして活動が取り組まれています。事前の問い合わせ等により、この保全管理作業をお手伝いいただくことも可能です。

雑木林のひとつき、心地よい汗を一緒に流しませんか！

## ●自然再生区域を広げるために保全管理の推進にご賛同ください！

くぬぎ山地区は民地が多いことから、自然再生の取り組みを広げるうえで地権者の方々のご賛同やご協力が欠かせません。現在取り組んでいる「くぬぎ山自然再生協議会」による保全管理イベント開催地も、くぬぎ山地区全体の配置バランス等を踏まえ、民有地で積極的に活動を進めることが望まれています。

対象地となれば、ゴミ・投棄物の撤去はもちろん、昔ながらの明るい雑木林をとり戻すことも可能となります。地権者の方々の希望や賛同を、ぜひ自然再生協議会にお寄せください。

## ●「くぬぎ山地区自然再生協議会」へ委員としてご参加ください！

くぬぎ山地区で進める自然再生の取り組みでは、平成17年度に策定された「くぬぎ山地区自然再生全体構想」の実施が求められています。その推進母体である「くぬぎ山地区自然再生協議会」は、自然再生事業を進めようとする人は原則どなたでも委員として構成メンバーに加わって活動することが可能です。

自然再生は、歴史的に培われてきた地域特有の自然環境を再生し、地域おこしに役立てるものです。地域社会の主体である地権者、近隣住民、企業・事業者等々の様々な方々の参加が望まれています。くぬぎ山を三富地域の財産として将来に引き継ぐために、多くの方々の参加をお待ちしています。



### お問い合わせ

くぬぎ山地区自然再生協議会代表運営事務局  
(埼玉県環境部みどり再生課  
緑地保全・自然再生担当)  
電話 048-830-3150 FAX048-830-4775  
E-mail a3190-05@pref.saitama.lg.jp

# くぬぎ山だより

No.1

2012.3.17  
発行

## くぬぎ山自然再生の輪を広げよう！

くぬぎ山地区は、埼玉県南西部の武蔵野台地上に広がる152haにおよぶ平地林です。起伏のある丘陵地を除くと東京都側も含めて、いわゆる「武蔵野の雑木林」としては現在残っている最大規模の緑地となっています。ところが都心から30km圏内にあることや3市1町の行政界に位置することなどから、この20～30年の間に産廃施設等の虫食い開発が進み、一時はダイオキシン問題で全国的に脚光を浴びる場所ともなりました。

そうした中、「環境の世紀」とも言われる21世紀に入って“自然再生”が法制化されるまでの流れとなり、この「自然再生推進法」に基づき2004年に「くぬぎ山地区自然再生協議会」が設立され、現在にいたるまで活動が継続されています。

くぬぎ山は、江戸中期からの人と自然との関わりの中で形成されてきた代表的な里地里山としての特徴を有し、循環と共生を基本とする“雑木林文化”や地球規模の環境問題として位置づけられるに至った“生物多様性”を、将来世代に引き継ぐべき重要性を担った場所であることは間違いありません。

現在、「くぬぎ山地区自然再生協議会」は市民団体・NPO、企業事業者、学校、学識者、一般県民、国・県・市町等の計72名の委員によって構成され、「くぬぎ山地区自然再生全体構想」に示された目標の達成に向けた活動に、様々な立場の方々のご協力により取り組んでいます。

この活動の輪をさらに広げるために、「くぬぎ山だより」を発行しました。くぬぎ山自然再生への理解を深め、多くの方々に、ご参加ご協力いただけることを願っています。

くぬぎ山地区自然再生協議会  
会長 勅使河原 彰



## \*くぬぎ山地区の自然再生に関する主な歩み\*

- 平成14年7月(2002年) 埼玉県が「くぬぎ山自然再生計画検討委員会」を設置 平成14年度内に4回開催
- 平成15年3月(2003年) 埼玉県知事へ上記検討委員会が「くぬぎ山自然再生計画報告書」を提出
- 平成15年1月(2003年) 4月 「自然再生推進法」が施行 同法に基づく「自然再生基本方針」が閣議決定
- 平成16年7月(2004年) 同法に基づく「くぬぎ山地区自然再生協議会・設立準備会」を設置 4回の準備会を開催
- 平成16年11月(2004年) 「第1回くぬぎ山地区自然再生協議会」が公募委員も含め計70名で発足
- 平成17年3月(2005年) 「第3回くぬぎ山地区自然再生協議会」の意見交換を踏まえ、「くぬぎ山地区自然再生全体構想」を策定
- 平成20年11月(2008年) くぬぎ山地区自然再生協議会の主催による「くぬぎ山清掃活動・見学ウォーク」のイベント開催
- 平成22年5月(2010年) 「第19回くぬぎ山地区自然再生協議会」にて、協議会主催による県民参加型の保全管理活動イベントの定期開催を決定
- 平成22年7月(2010年) 「第20回くぬぎ山地区自然再生協議会」にて、“平地林保全管理活動の取組方針”を決定
- 平成23年3月(2011年) 「第21回くぬぎ山地区自然再生協議会」にて、“保全活動実施地の日常的な保全管理ボランティアのルール化”を決定



くぬぎ山の平地林を生きもの豊かな森にするため、みんなでこんな活動を進めています！

# —くぬぎ山地区自然再生協議会主催による「保全管理イベント」の報告—

くぬぎ山では『くぬぎ山地区自然再生全体構想』の“目標1. 平地林の荒廃を抑制し、豊かな緑と生物の多様性を維持する”を達成するための活動が、様々な市民団体・NPO等により取り組まれています。くぬぎ山で自然再生の検討が始まった平成14年頃に比べると、ゴミの散乱や不法投棄が格段に減ったのは、誰の目にも明らかでしょう。これらは、多くの団体が積極的に“くぬぎ山クリーン作戦”を行い、継続している成果です。

また、くぬぎ山の森林の特徴である雑木林(二次林)を維持・再生するためには、下草刈りや萌芽更新の皆伐、常緑樹や植林木の間伐等々の林の手入れが必要になります。

これらの管理作業に関係する活動も様々な団体によって取り組まれてきたところですが、平成22年度より自然再生協議会の主催イベントとして、保全管理活動がスタートしました。この2年間に実施された活動を、以下に紹介します。

**第1回** 平成22年9月11日(土) 10:00~12:30 / 参加者36名

## 『アカマツ幼木救出大作戦』

—つる切り等によるアカマツ幼木の育成—

場所: 狭山市堀兼【自然再生地】4,960m<sup>2</sup>内  
目標植生タイプ: アカマツ林

第1回のイベントは、「くぬぎ山地区自然再生事業」の第1号として産廃施設移転跡地に平地林の再生を試みた象徴的なフィールドで、猛暑のなかみんな汗を流しました。

この場所は、狭山市が自然再生の基盤整備を行い7~8年がたち、自然に芽生えたアカマツの幼木が点在するまで再生が進んでいます。このアカマツの成長に害を及ぼすズ(つる植物)やセイタカアワダチソウ(外来植物)の刈り取り作業等に取り組みました。

森の自然再生を成功させるためには、苗や幼木が日陰にならないよう外来植物等の管理を数年間どう続けるかが大きな課題です。刈られた草の山を見て、参加者一同おおいなる達成感を味わうことができました。



**第2回** 平成22年12月11日(土) 10:00~15:00 / 参加者63名

## 『雑木林の若返り大作戦』

—萌芽更新によるコナラ二次林の再生—

場所: 狭山市上赤坂【ふるさと緑の景観地】4,176m<sup>2</sup>内  
目標植生タイプ: コナラ林

くぬぎ山の雑木林の多くは、管理放棄により生きもの多様性が損なわれつつあります。そこで、林の一面の高木を全て根元まで伐採し、新芽の再生により林の若返りを図る“萌芽更新”のイベントを実施しました。チェーンソーを使用する専門的NPOチームと下刈りを主としたチームに班分けし、みんなで力を合わせ雑木林の目に見える変化を実感しました。

事前に、花が美しいヤマツツジや希少植物のキンラン・クモキリソウ等をマーキングして保全しながら作業を進めたこともあり、翌春には眠っていた植物の目覚めもあり、多様な草花が咲き乱れる伐採更新地となっています。



## ● 保全管理イベント実施の流れ ※自然再生協議会主催のイベントは、以下の手順で進めています！

1. 保全管理活動実施区域の選定(緑地保全目的の公有地 or 地権者同意の民有地)
2. 活動区域内の植生・動植物相等の現況把握 希少種等マーキング
3. 「保全管理目標」「目標植生タイプ」の設定
4. 管理活動(作業)内容とイベントプログラム(案)の作成
5. 「くぬぎ山地区自然再生協議会・運営委員会」での協議・決定



**第3回** 平成23年9月17日(土) 10:00~12:00 / 参加者35名

## 『アカマツの森づくり大作戦』

—外来植物等の駆除と間伐によるアカマツ林の再生—

場所: 狭山市堀兼【自然再生地】4,960m<sup>2</sup>内  
目標植生タイプ: アカマツ林

狭山市の自然再生地は、産廃施設建設前のアカマツ林を再生することを目標に、ポット苗で植えたものと自然に芽生えたアカマツの両方の育成を進めています。第3回イベントでは、4~6m程に育った植栽アカマツの間引きと、外来植物やつる植物の除去を主とした管理活動を実施しました。

この場所でのアカマツの森づくりイベントも2年目となり、苗植栽と自然発芽の両方の場所とも目標とするアカマツ林の再生に近づきつつあることを、心地よい汗と共に確認できた一日となりました。



**第4回** 平成23年12月18日(日)

10:00~15:00 / 参加者63名

## 『明るい雑木林復活大作戦』

—間伐と下草刈りによる林床の再生—

場所: 川越市中福【民有林】3,959m<sup>2</sup>内  
目標植生タイプ: アカマツ・コナラ林

これまでの保全管理イベントは公有地で行いましたが、今回は地権者の方と話し合い、くぬぎ山南東部に位置する川越市域の民有林を対象に、明るい雑木林をとり戻す活動に取り組みました。

元々はコナラ林にアカマツの混じる林でしたが、近年シラカシ等の常緑樹やスギ等の植林木が増え暗い林となり、ゴミの投棄等も目立つようになっていました。

今回の活動では、賑やかな15名程の小学生の参加者も交えて常緑樹や植林木の間引きと低木除去作業を進め、明るい林床が開けた状態となりました。見通しの良い「武蔵野の雑木林」の景観がよみがえり、春になってどんな野草や昆虫が復活するかが、とても楽しみです。

